

E.L.F.

EQUALITY

LIBERTY

FRATERNITY

2022
82
fall

特集

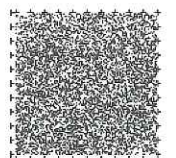
差別しない社会に向けて
—水平社 100年から考える

インタビュー



和歌山大学教育学部附属小学校

4年生	西前	友雅	さん
6年生	河島	香音	さん



特 集

差別しない社会にむけて—水平社100年から考える

関西大学人権問題研究室委嘱研究員 宮前 千雅子

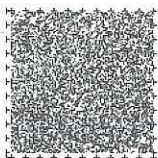
水平社の目指した社会

1922年3月3日、水平社は誕生しました。京都の岡崎公会堂で開催された創立大会には1,000人が参加したといわれています。福岡の田中松月は、公会堂の前に到着してもすぐに中に入ることができませんでした。なぜなら、田中にとってそれまで部落出身であることは隠すことが当たり前であり、それを公表して大会を開くという水平社に対して「嬉しいような、なんか恐ろしいような」気持ちがあったからでした（「田中松月の全国水平社創立大会への参加について」『リベラシオン 人権研究ふくおか』176、2019年12月）。



田中の迷いは、今年ふたたび映画化された島崎藤村の『破戒』（1906年出版）の主人公の苦悩と通ずるものがあります。その苦悩は部落出身を隠せという父の戒めと、出身を明らかにして生きる社会運動家への心酔とのせめぎ合いのなかにありました。

創立大会で読み上げられた宣言や綱領には、被差別部落や部落民衆に対する蔑称語がそのまま使われています。実際に創立大会直後の話し合いの場においてもそういった語を使うべきではないとの意見が出ますが、名称を変えても解放は達成されない、「（そのまま）標榜して、堂々と社会を闊歩」する、それらの語を「逆に尊称たらしむる」などの意見が出され、その声は打ち消されます。水平社が目指したのは、部落出身であることを公言しても差別されない社会であり、その思想は差別されることが当たり前であった部落民衆にとって大きな勇気を与える画期的なものでした。公会堂前で創立大会会場に入るか迷った田中松月も、中に入った途端、「胸のつかえなんて、さっと（とれた）」と語っています。



人権尊重の基本ー「尊敬」

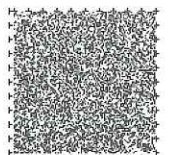
水平社宣言を読んで感動された方も多いでしょう。実はわたし自身、大学生になって部落出身であることを親から告げられ、まず読んだのがこの宣言でした。とくに「ケモノの皮剥ぐ報酬として、生々しき人間の皮を剥取られ、ケモノの心臓を裂く代価として、暖かい人間の心臓を引裂かれ…」という一文は、祖父母の生業とも重なり、心を震わせながら読んだことを覚えています。

なかでも人権を尊重するうえで現在でも大切にすべき一節が、「人間を尊敬する事によって自ら解放せんとする」という部分です。これは宣言の起草者のひとりである西光万吉が「彼は戦時下から亡くなるまでのおよそ30年間を現在の和歌山県紀の川市で暮らしましたー、宣言の前に書いた『よき日の爲めにー水平社創立趣意書』にも書かれている言葉です。それには、ゴリキーの『どん底』から「人間は元来勤る可きものじゃなく尊敬す可きものだ」という言葉を引き、「同情」は人間を「安っぽくする様な事」と表現します。また、「人間は尊敬す可きものだ」と題する文章においても西光は、「同情」は「僭越な情操」「専制の行為」として、「人間は尊敬すべきものである」と述べています（『水平』第2号、1922年11月28日）。つまり同情は、力のある強い者から弱い者に対して施しのように差し伸べられるものであり、決して対等な関係性のなかで成立するものではないということでしょう。お互いを認めあう尊敬しあえる関係性は、差別のない社会の基本といえそうです。

また西光は『よき日の爲めに』のなかで、「吾々も、すばらしい人間である事を、よろこばねばならない」と続けます。さらに「人間は尊敬す可きものだ」のなかでも「吾等の運動は「あたかもオノレに惚れよ」と云ふ如きものである」とも述べます。つまり他者を尊敬するためには、まず自分自身を尊敬することが大切だということです。とくに西光が強調しているのは、当時の部落大衆が長年の部落差別によってそれを内面化し自らのルーツを卑下せざるを得なかったことへの懸念ではありますが（それは冒頭に紹介した田中松月の迷いにも表れています）、他者を尊敬するためには自分自身をも尊敬できなければならない、というのは現在でも十分に理解できることではないでしょうか。

和歌山県民の意識

では、いま、わたしたちは自分自身を尊敬し他者を尊敬できているのでしょうか？和歌山県が2018年に実施した「人権に関する県民意識調査」の同和問題（部落差別）の質問項目の結果をみていきましょう。そのなかに「仮に、あなたに子供がおり、あなたの



子供が、結婚しようとする相手の方が、同和地区の人であったとき、あなたはどうしますか（〇は1つだけ）」という質問があります。選択肢は「当然、子供の意思を尊重する」「反対だが、子供の意思であれば、仕方がない」「家族や親せきに、反対意見があれば、結婚に反対する」「絶対に、結婚には反対する」「わからない」という5つです。みなさんなら、どれに〇をつけられるでしょうか。

その結果が図1です。子供の意思を尊重する人が確かに半数以上を占めているのですが、心からの賛成は2人に1人、という結果です。反対する人は5%程度で20人に1人が反対することになります。ここ数回の調査の推移をみて気になるのは、「わからない」と答える人が増えつつあることです。「わからない」はどちらでもない、というよりもやはり明確に賛成し切れない人たちであり、なにかの拍子に差別的な行為に引っ張られてしまう可能性が強い人たちでもあるといえるからです。水平社宣言にある「尊敬しあえる関係性」を築けているのかというと、心もとない結果ではないでしょうか。そして「反対」を選択する人、「わからない」を選択する人には問うてみたいと思います。あなたはそれで、自分自身を尊敬できるのかと。

問17 仮に、あなたに子供がおり、あなたの子供が、結婚しようとする相手の方が、同和地区の人であったとき、あなたはどうしますか（〇は1つだけ）。

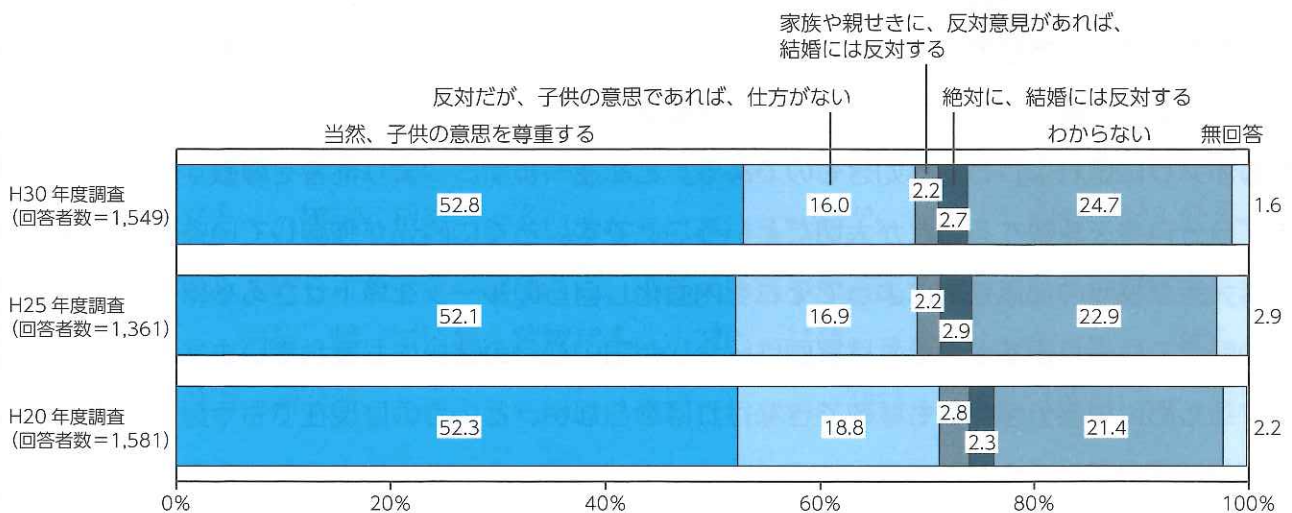
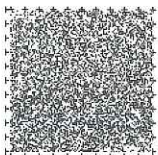


図1 平成30年度人権に関する県民意識調査及び事業所アンケート調査結果 (和歌山県企画部人権局)



差別しない社会にむけて

「尊敬」というと、社会的に評価される作品をつくった人などに対する「賞賛」に近いものと思われるかも知れません。しかし、水平社宣言にある「尊敬」はそうではありません。西光が述べたとおり、「人間である事」をきっちりと認め合うことだからです。

わたしは部落出身であり、女性であり、日本人であり、異性愛者です。これ以外も含めてさまざまな属性をもつ人間です。それらのうち部落出身である、女性であるという属性は、差別される可能性のある属性であり、社会においてはマイノリティ（少数という「数」の問題ではなく、抑圧される側に位置づくという意味合いで）に立つ属性です。逆に日本人であり異性愛であるという属性はマジョリティ（上記同様、抑圧する側）に位置づく属性です。すべての人は、そういった多様な属性の集合体でもあるのです。そしてその属性がマジョリティとなるのかマイノリティとなるのかは、これまでの社会でつくりられてきた文化や規範、秩序、制度などに起因します。さらにいうならば課題解決のためには、マジョリティ側が大きな鍵をもっているといえます。

このように自らの属性を整理していくと、見えてくることがあります。人権課題と無関係な人などいないということ、そして誰もが課題を解決に導く力をもっているということです。お互いを認め合って対等な関係性を築くことは、自分自身をみつめなおすことから始まります。

相談 秘密
せうだん びつつけんしゆ
無料 厳守

人権ホットライン

人権でんわ相談

さまざまな問題や悩みを抱える
相談者に助言を行い、
自身が主体的に問題を解決する
ための支援を行います。

一般相談

- ①開設日時／毎週月曜日～金曜日
午前9時～午後4時
(祝日・12/29～1/3は休み)
- ②相談方法／電話相談
TEL 073-421-7830

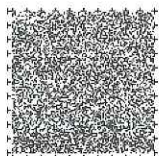
弁護士による無料法律相談

- ①開設日時／偶数月 第2・第4木曜日
奇数月 第2土曜日・第4木曜日
午後1時～4時(当日が祝日の場合はその翌日)
- ②相談方法／面接相談・オンライン相談
TEL 073-435-5420 (お電話でご予約ください)

日頃、生活の中で人権に関するお困り事などがありましたら、
お気軽にご相談ください。

2022(令和4)年度法律相談実施日

10月13日・27日, 11月12日・24日, 12月8日・22日, 1月14日・26日, 2月9日・24日, 3月11日・23日





絵本「バスが来ましたよ」と私

2022年6月、絵本「バスが来ましたよ」が発刊
されました。今回は、和歌山大学教育学部附属小学校

4年生の西前友雅さんと、6

年生の河島香音さんに、絵本の元になったお話や、困
っている人をサポートするときの気持ちを伺いました。

※このインタビューは、2022年8月に行われました。



河島さん

Q1 絵本「バスが来ましたよ」が発刊されたとき、どんな気持ちがしましたか？

もともと、「山崎さんが喜んでくれたらいいな」と思ってお手伝いをして
きただけだったのに、絵本になるなんて思ってもみませんでした。

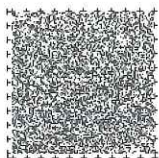
困っている人を助けるのは当たり前だと思っていたので、すごいことみた
いに言われると、「いいのかな？」っていう気持ちも正直ありました。

でも、せっかく絵本になるのなら、できるだけ多くの人を読んでくれて、
誰かをサポートしようと思う人が増えたら嬉しいです。



西前さん

私のお姉ちゃんも同じ小学校で、山崎さんのお手伝いをしていたので、幼
稚園の頃からお姉ちゃんを見て、「やってみたいな」って思っていました。
習い事に行ってる間に出版社の人が家に来てくれたので、絵本になること
は後で聞きました。びっくりしました。



Q2 この絵本は、山崎浩敬さんの「あたたかな小さい手のリレー」※という作文が元になっているそうですね。そのことについて、教えてくださいませんか？



にしまえ
西前さん

私にはお姉ちゃんが2人います。初めは、一番上のお姉ちゃんのお友達が山崎さんのお手伝いを始めたみたいです。そのお友達は年上だったので先に卒業して、その後2人のお姉ちゃんが順番にリレーを引き継ぎました。それがずっと続いていて、山崎さんがこの話を作文に書いて、コンクールに出してくれたそうです。

最初に親切にした子がいなければ、山崎さんは作文を書いていないし、絵本も出ていなかったと思います。私たちが山崎さんと知り合うこともなかったと思うので、1つの親切が後にずっとつながるって素敵だなんて思いました。



かわしま
河島さん

私がお姉ちゃんから引き継いだときは、山崎さんに「君は何番目の子？」って尋ねられました。
今は、誰がするっていうんじゃなくて、バス停で山崎さんの後ろに並んだ子が手伝っている感じです。



にしまえ
西前さん

クラスに、ちょっとやんちゃな男の子がいます。その子も山崎さんと同じバスなのですが、山崎さんに席を譲ったり、みんなを笑わせて場を盛り上げてくれたりしています。きちんと周りに気を遣える、優しい子なんだなと思います。

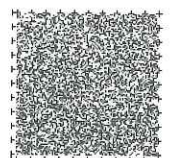


かわしま
河島さん

※ 「あたたかな小さい手のリレー」

一般社団法人全国信用組合中央協会主催の「小さな助け合いの物語賞」で、和歌山県の山崎浩敬さんの「あたたかな小さい手のリレー」という作文が、「第11回しんくみ大賞」を受賞しました。

山崎さんは視覚に障害があり、作文の中で、バスで通勤する際に出会った子ども達の「あたたかな小さい手」のお陰で頑張れると仰っています。



Q3 やまさき 山崎さんとは、どんなお話をしましたか？

山崎さんの息子さんも、私たちと同じ附属小学校だったので、共通の話題がたくさんあります。山崎さんから話しかけてくれて、学校のことを尋ねてくれます。



かわしま 河島さん



にしまえ 西前さん

自分から話しかけるのはちょっと勇気がいるけど、山崎さんはとても話が上手で、たくさん話しかけてくれます。山崎さんと話ができるようになったからか、少しずつ知らない人にも声をかけられるようになりました。前に、気分が悪くなった下級生の子を手伝ったことがあるんですが、勇気を出せて良かったなって思います。

運動会とか合宿とか、学校の行事の話をよくするよね。



かわしま 河島さん



にしまえ 西前さん

うん。山崎さんの息子さんの頃とどこが同じで、どこが違うか、色々な話を聞けるのが楽しいね。
それから、山崎さんは別れるとき必ず、「ありがとう、いつてらっしゃい！」って言ってくれます。

Q4 やまさき 山崎さんと一緒に過ごして、どんなことを感じたり、考えたりしましたか？

色々な話をしながら、附属小学校の歴史とかを教えてもらえたりするので、とても勉強になります。「昔の附小（附属小学校）はこうだったんだ」って発見するのが面白いです。

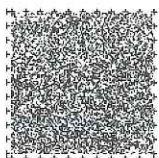


にしまえ 西前さん

山崎さんは、本当に話し上手で聞き上手だと思います。それに、とても優しい。私の想像ですけど、目が見えなくなって、苦しい思いや辛い思いをたくさんしてきたことで、人の痛みがよくわかるから、より優しいんじゃないかなと思います。



かわしま 河島さん





にしまえ
西前さん

わたしは、山崎さんに「ありがとう」って言われると、何て返したらいいのかわからなくて、ただ「うん」ってうなずいてしまいます。ありがとうって言われたら私も嬉しいから、「どういたしまして」はちょっと偉そうな感じがして違う気がする。

「お仕事、がんばってください」とかはどうかな？

それいいね。今度言ってみよう。



かわしま
河島さん

Q5 だれかをサポートすることについて、どんな風に感じていますか？



にしまえ
西前さん

また、絵本を通して、みなさんにどんなことを伝えたいですか？

大変な思いをしている人がいるなら、お手伝いをして、その人がいい気持ちになってくれたら嬉しいです。

すごく大きなこととか、難しいことじゃなくて、自分が無理せずできる範囲で、誰かをサポートできたらと思います。そんな小さなことでその人が気持ちよくなってくれるなら、迷わずすぐにすればいいんですよ。



かわしま
河島さん



にしまえ
西前さん

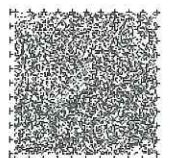
終業式の前、山崎さんがみんなに「障害のある多くの方は困っているから、ぜひサポートしてあげてください。」っていうメッセージをくれました。

私は昔、街で困っている人を見て、声をかけそびれてしまったことがありました。その時は、勇気を出せなかったことにとても悔しい思いをしました。

白杖や車いすを使っている人は、きっと困っていることが多いと思います。もしかすると、助けはいらないうって言われるかもしれないけど、手伝いが必要かも…って思うなら、声をかけてみる方がいいと思います。



かわしま
河島さん



同和運動推進月間特別講演会

差別しない社会にむけてー水平社100年から考えるー

- 日時：11月4日（金） 14:00～16:00
- 場所：和歌山県勤労福祉会館 プラザホープ 4階ホール
（和歌山市北出島1丁目5-47）

定員
150人
（申込先着順）

- 講師：関西大学人権問題研究室委嘱研究員 宮前 千雅子さん
- 申込方法：「名前」「連絡先（電話番号）」「所属先（あれば）」をFAX・電話・Eメールまたは郵送で10月27日（木）までに下記までお知らせください。（お預かりいたしました個人情報については当センターで責任をもって管理し、本講座のみに使用させていただきます。）

（公財）和歌山県人権啓発センター 「同和運動推進月間特別講演会」係

FAX 073-435-5421/TEL 073-435-5420/Eメール kouen@w-jinken.jp

住所 〒640-8319 和歌山市手平2丁目1-2 県民交流プラザ和歌山ビッグ愛2階

※手話通訳・要約筆記を設置します。

人権ユニバーサル事業

みんなでVR体験をしよう！認知症フレンドリー講座

- 日時：12月17日（土） 13:00～16:15
- 場所：和歌山県民文化会館 5階大会議室（和歌山市小松原通1丁目1）

定員
30人
（申込先着順）

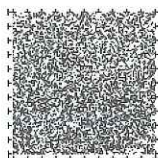
- 講師：朝日新聞社総合プロデュース本部・プロデューサー 坂田 一裕さん
- 申込方法：「名前」「連絡先（電話番号）」「所属先（あれば）」をFAX・電話・Eメールまたは郵送で下記までお知らせください。（お預かりいたしました個人情報については当センターで責任をもって管理し、本講座のみに使用させていただきます。）

（公財）和歌山県人権啓発センター 「VR認知症体験」係

FAX 073-435-5421/TEL 073-435-5420/Eメール sports@w-jinken.jp

住所 〒640-8319 和歌山市手平2丁目1-2 県民交流プラザ和歌山ビッグ愛2階

新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、延期または中止になる可能性があります。ご了承ください。



ふれあい人権フェスタ2022を開催します!

場所 和歌山ビッグホエール (和歌山市手平2-1-1)

日時 2022年11月19日 (土) 10:00~16:00

主な内容 アリーナステージ — 人権の詩 (こころのうた) 表彰式

人権啓発ポスターコンテスト表彰式

りいぶるフェスタ2022

・男女でつくる元気な和歌山ポスター最優秀賞受賞者表彰式

わかやまこころのフェスタ2022

・グループ活動紹介

・精神保健福祉協会会長表彰式

・ほっとする笑顔つながるこころの絵表彰式

各団体等のステージイベント

アリーナ会場 — 各団体等のブース

講演会場 — 浜田敬子さん (ジャーナリスト、前 Business Insider Japan 統括編集長、AERA 元編集長) の講演

特設会場 — 弁護士による無料法律相談 ※要予約

主催 和歌山県、(公財)和歌山県人権啓発センター、和歌山県人権啓発活動ネットワーク協議会

後援 和歌山県教育委員会、和歌山県市長会、和歌山県町村会



お問い合わせ先

▶ りいぶるフェスタ2022

和歌山県男女共同参画センター「りいぶる」 TEL 073-435-5245

▶ わかやまこころのフェスタ2022

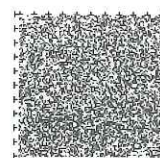
和歌山県精神保健福祉センター TEL 073-435-5194

▶ 弁護士による無料法律相談

和歌山弁護士会 TEL 073-422-4580

新型コロナウイルス感染予防を徹底して開催します!

つきましては、ご来場のみなさまにも「検温」「手指消毒」「マスクの着用」「お名前等の記入」等、感染予防及び感染拡大防止のため、ご協力をお願いします。ルールを守ってお楽しみください。みなさまのご来場、心よりお待ちしております。



ふれあい 人権フェスタ 2022

入場
無料

ご来場＆アンケートに答えて
プレゼント!
※数に限りがあります。

※新型コロナウイルス感染予防にかかる、
会場の規定により、マスクの着用、
受付での検温と、名前・電話番号等の
記入について、ご協力願います。

11/19 土 SAT
10:00 ▶▶ 16:00
和歌山ビッグホエール



りいぶるフェスタ2022
14:00～15:30 講演会場
観覧150人 要事前申込
講師 浜田 敬子さん
ジャーナリスト
前Business Insider Japan統括編集長
AERA元編集長
「一歩踏み出せば自分も社会も変わる」

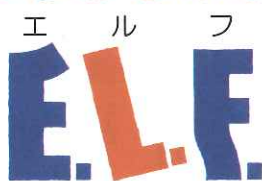


りいぶるフェスタ2022
同時開催
和歌山県男女共同参画センター
TEL 073-435-5245
わかやまこころのフェスタ2022
和歌山県精神保健福祉センター
TEL 073-435-5194

【主催】和歌山県、(公財)和歌山県人権啓発センター、和歌山県人権啓発活動ネットワーク協議会
【後援】和歌山県教育委員会、和歌山県市長会、和歌山県町村会

お問い合わせ 〒640-8319 和歌山市手平 2-1-2 公益財団法人 和歌山県人権啓発センター
TEL 073-435-5420 FAX 073-435-5421 E-mail mail@w-jinken.jp URL w-jinken.jp/

※都合により中止または、内容が変更する場合があります。
ご来場の際は、公共交通機関をご利用下さい。
ステージイベント、講演には、手話通訳、要約筆記があります。



公益財団法人 和歌山県人権啓発センター
Equality / 平等 Liberty / 自由 Fraternity / 友愛

- お問い合わせ 〒640-8319 和歌山市手平 2丁目1-2 和歌山ビッグ愛2階
TEL 073-435-5420 FAX 073-435-5421
URL w-jinken.jp/ E-mail mail@w-jinken.jp
- 開館時間 9:00～17:45 *人権ライブラリー・人権ギャラリーは、
9:30～17:00
- 休館日 日曜・祝日、年末年始(12/29～1/3)
- 交通案内 JR和歌山駅から徒歩約20分、バス:約5分「手平出島」下車
JR宮前駅から徒歩約7分
南海和歌山市駅からバス:約20分「手平出島」下車
有料駐車場あり 100円/50分(30分以内無料)

